

共同研究活動および各種委員会活動から見た 北見市と北見工業大学の産学官連携

○水野 朋恵（北見工業大学 工学部 バイオ環境化学科 マネジメント工学コース）
内島 典子（北見工業大学 社会連携推進センター）

1. はじめに

国立大学の法人化を受け、大学は研究、教育に加え社会貢献が大学の大きな使命となっている。産学官連携はこれらの活動に欠かせない重要な手法のひとつである。筆者らは、大学の使命遂行におけるその重要性について学内外で必ずしも高い認識が得られているとは言えない状況にあると考える。また、地域の産業界、行政、大学による連携においても活動の活性化余地は大きく、その一方で、それら活動の実態は明らかになっていると言いが難い。そこで、本研究では北見工業大学と北見市が連携し行っている共同研究と各種委員会活動に着目し、それらの領域で地域貢献に向け大学が進めている学官連携の実態を明らかにした。

2. 研究方法

1) 共同研究

国立大学が法人化する以前の平成13年度から法人化後の27年度までの15年間における共同研究を対象とした。

2) 北見市の各種委員会活動

平成25年度から27年度までの3年間における各種委員会活動を対象とした。

3. 結果・考察

1) 共同研究

図1. に北見工業大学と北見市との共同研究の研究分野別割合を示す。15年間の北見工業大学と北見市との共同研究1251件のうち、環境分野の研究が全体の75%を占めている。環境分野では、河川の環境や下水の水質調査、寒冷地域に関する研究などを行っている。共同研究を通して、北見工業大学が有する工学の視点から、北見市の環境に関連する取り組みに大きく貢献していると考えられる。

また、北見工業大学が実施している共同研究総件数に占める北見市との共同研究件数の経年変化を図2. に示す。北見市とは毎年継続して10件以上の共同研究を実施しており、これらは共同研究総件数の約14%を占める。北見工業大学の共同研究総件数は年度により2割ほど変動しているが、その増減に比べ北見市との共同研究は安定的に行われているといえる。

2) 北見市の各種委員会活動

北見工業大学は、3年間で北見市の114件におよぶ各種委員会活動に参画している。工学関連の委員会（北見市都市計画審議会や北見市環境審議会など）と、専門分野とは異なった委員会（北見市男女共同参画審議会や北見市子ども・子育て会議、北見市消費生活審議会など）である。北見工業大学全体の教員数は150人であり、その約10%が北見市の委員会活動に参画していることがわかった。

北見工業大学が北見市と連携し進めている地域貢献活動について、共同研究と各種委員会活動の両面から明らかにすることができた。

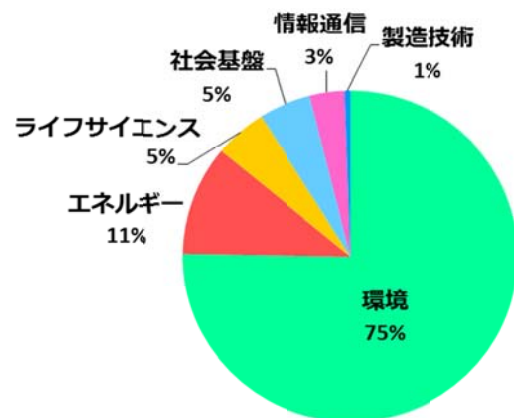


図1. 北見工業大学と北見市との共同研究の研究分野別割合

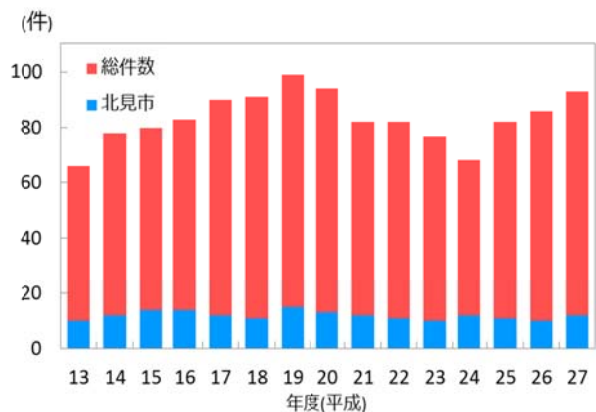


図2. 北見工業大学の共同研究総件数に対する北見市との共同研究件数の経年変化